



原発再稼働反対！ 行き場のない「負の遺産」＝ 使用済燃料をこれ以上生み出すな！ 関西電力は「乾式貯蔵施設」設置方針を撤回せよ！

「使用済燃料対策ロードマップ」で約束は果たしました。乾式貯蔵は、使用済燃料を円滑に搬出するためのもので、「貯蔵容量」は増やしません！？

でも…
乾式貯蔵の容量は、「国内外の情勢の変化や災害など、自社の事由によらない事情によって搬出が滞り、日本全国のエネルギー安定供給に貢献できなくなる可能性がある場合は、例外になると考えております。」(水田関電副社長)
(朝日2023.10.11)

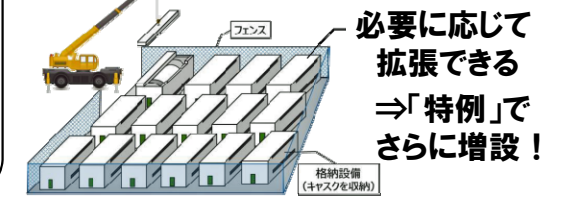
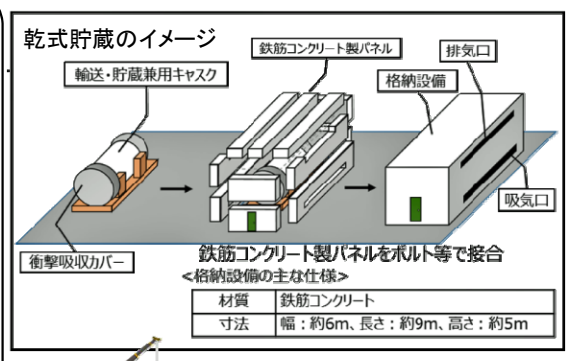


乾式貯蔵は、原発の運転延長を支援して重大事故を招き、ホットな使用済燃料によるプール事故の危険を高める！



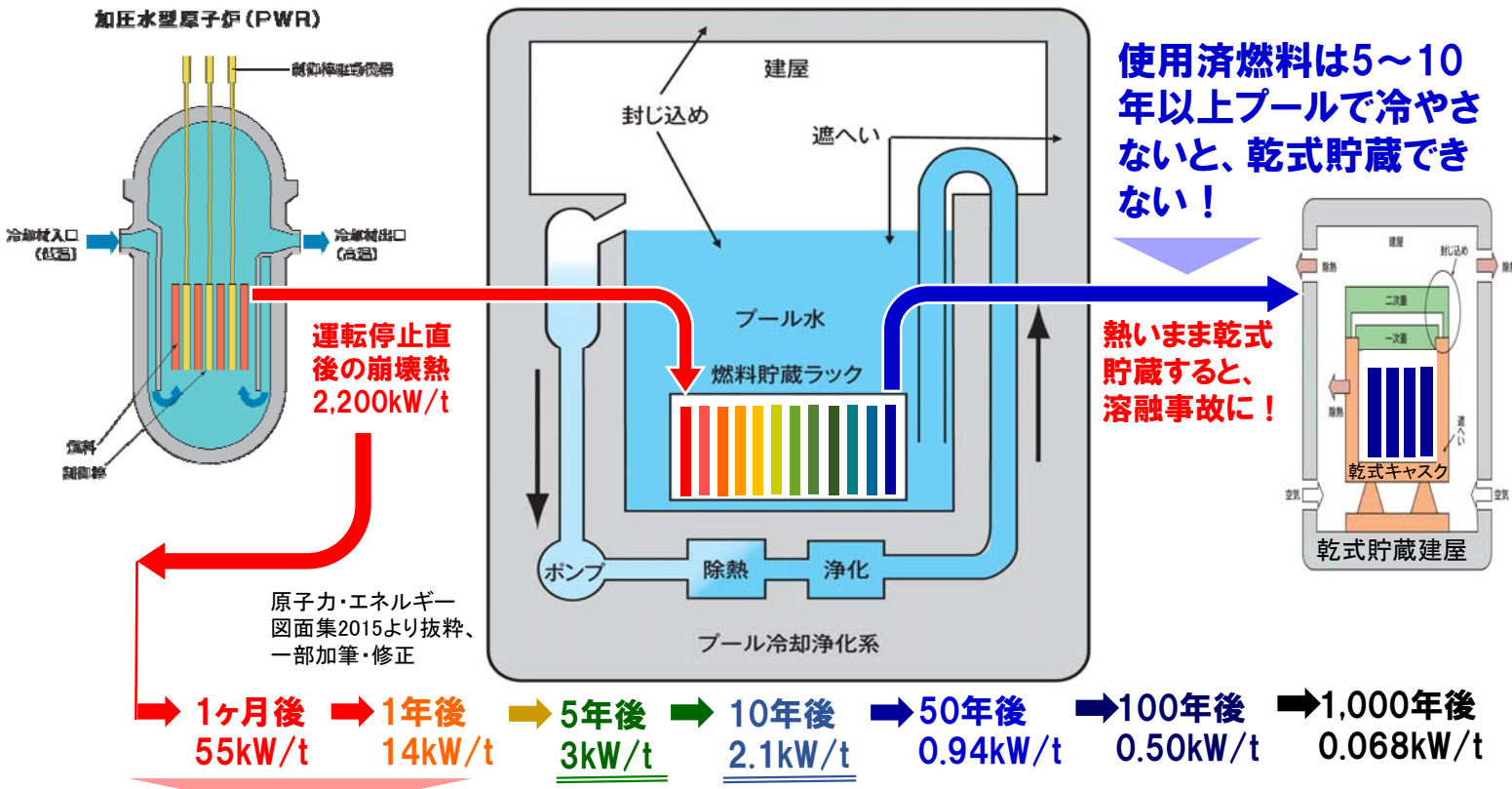
絵に描いた餅の関電「使用済燃料対策ロードマップ」(2023.10.10)

年度	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
六ヶ所再処理工場へ搬出	70t	170t	70t	...	徐々に800tへ	(うち、関西電力分はこの半分以下...)		
仏再処理実証研究へ搬出	70t	70t	60t	搬出量積増しを検討 (電気事業連合会の実証研究なので不可能)				
他地点で中間貯蔵施設を操業(むつ市は拒否、上関は調査着手段階で、10年以上かかる)	2,000t規模							
敷地内での乾式貯蔵	高浜350t、大飯250t、美浜100t			合計700t (1炉心+1取替分相当)				
	2/8に乾式貯蔵事前了解願ひ提出							



使用済燃料プール容量 4,370t **540t** → 1炉心分540tは、運転時に空けておかなばならず、使えない → 「1炉心+1取替分」を乾式貯蔵で確保 → 乾式貯蔵で4回燃料交換可能に！

乾式貯蔵・・・プールから空冷可能な使用済燃料を取出し、ホットで危険な燃料で置き換える ⇒ プール冷却水喪失事故の危険が高止まり！



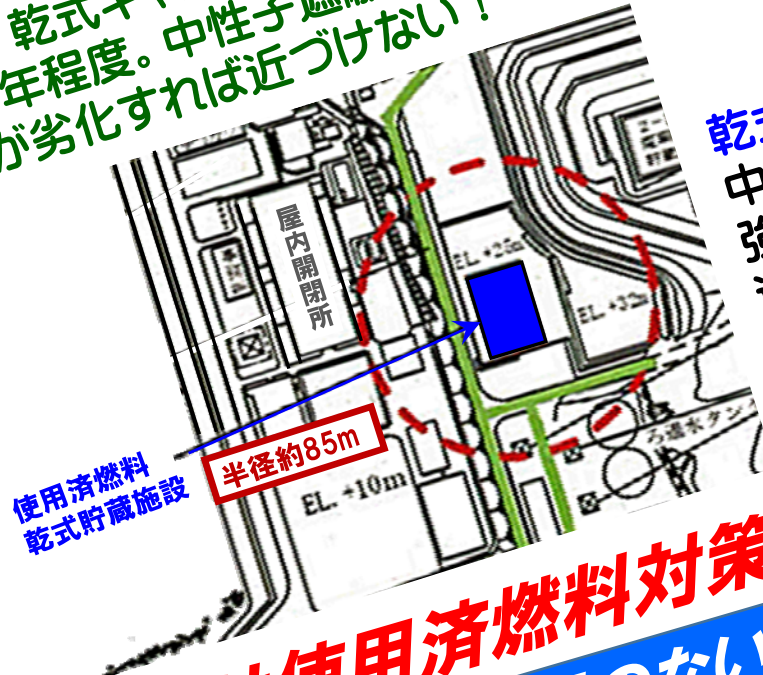
福島第一原発では、プール内のホットな使用済燃料が溶融して大災害をもたらす危険があった！

原発を止め、10年以上冷やせば、乾式貯蔵とプール貯蔵で溶融事故のリスクは大差ない！でも、強い放射線を遮蔽する必要がある！

使用済燃料の崩壊熱は、5~10年以上冷却すれば、人肌程度の2~3kW/t(成人の発熱量とほぼ同じ)に下がり、自然冷却できるようになる。ホットな燃料が供給されなければ、プール冷却水喪失事故のリスクはほぼなくなる！

乾式キャスクの寿命は60年程度。中性子遮蔽材レジンが劣化すれば近づけない！

乾式キャスクからは中性子線やガンマ線など強い放射線が放出されていて、遮蔽なしの屋外放置では、85m圏内が管理区域(3ヶ月あたり1.3mSvを超える)になる(伊方3号の場合は左図⇒これに基づき、遮蔽用貯蔵建屋の設置が決まった)



関電は使用済燃料対策ロードマップを撤回せよ！

行き場のない「負の遺産」=使用済燃料をこれ以上生み出すな！

原発再稼働反対！

